

社会資本整備審議会道路分科会第10回基本政策部会

2002年7月19日

【事務局】 では、お待たせをいたしました。○○委員、所用により若干おくれるとの連絡をいただいておりますので、ただいまから、社会資本整備審議会道路分科会第10回の基本政策部会を開催させていただきます。

本日の資料の確認でございますが、議事次第、座席図、委員名簿等をお配りをしていると思いますので、ご確認をいただければと思います。

よろしいでしょうか。

では、議事に入りたいと思いますが、その前に、7月16日付で事務局側の人事異動がございましたので、ここでご紹介を申し上げます。

道路局長の佐藤信秋でございます。

道路局次長の榊正剛でございます。

技術審議官の近藤秀明でございます。

道路局企画課長の宮田年耕でございます。

道路局路政課長の林部史明でございます。

道路局地方道・環境課長の森永教夫でございます。

最後でございますが、私、道路局総務課長の大森雅夫でございますので、よろしくお願いをいたします。

以上でございます。

それでは、部会長、議事につきまして、よろしくお願いいたします。

【部会長】 それでは、本日、中間報告（案）につきまして最終的な取りまとめをしたいと思います。前回までいただいたご意見を踏まえまして、中間報告（案）を修正いたしました。事務局より最初に説明をしていただいた後、また議論をしたいと思います。それでは、事務局、よろしくお願いいたします。

【説明員】 それでは、説明をさせていただきます。前回7月2日でしたが、7月2日の部会でのご意見を踏まえ、修正したものをまた委員の皆様にご送らせていただきまして、再度意見をいただいて修正したものが、この資料でございます。委員の皆様方には大変お忙しい中、適切な意見をいただきまして、感謝申し上げる次第でございます。

最初に、大きく変わった点を申し上げたいと思います。

まず、表題でございますが、表題の最終案をこういう形でつけさせていただきました。後ほどまた簡単にご説明させていただきます。

それから、全体の構成でございますが、表紙をめくっていただきまして、「はじめに」がございます。「はじめに」の次に部会の名簿をつけさせていただきました。それから、この名簿の次、目次をごらんいただければと思いますけれども、構成について変更をさせていただきました。まず、第 部でございますけれども、第 1 部の 1 章、2 章、3 章、4 章の章立ては変わっておりませんが、第 2 章の中の 2 - 2 「道路を取り巻く諸環境の変化」のところの中身の順番を変えております。前は「産業の空洞化による競争力の低下」というのが一番最後の項目に来ておりまして、〇〇委員からの非常に危機感が足りないというおしかりをいただきまして、これを「諸環境の変化」の中の 1 番に持ってきたということで、順番を変えました。それに伴いまして、2 - 2 の中の項目の順番を見直したものでございます。

それから、次の次のページを見ていただきまして、第 部でございます。第 部の構成も大きく変えております。まず、前回、第 2 部は「政策目標」、第 5 章と、その次のページ「行政システムの改革」の順番が逆でございました。これは前回、〇〇委員のほうから、部の順番と 部の順番が違うのはわかりづらいということで、このように先に「政策目標」を持ってきまして、その次に「システムの改革」という順番に変えさせていただきました。

それから、部の章立ても、部からの通しで第 5 章、第 6 章とさせていただいたところでございます。

大きく変わったところで、第 5 章の「政策目標」のところでございますが、前回、政策目標が 5 つになっておりましたが、今回 3 つに集約をさせていただきました。ここも前回、非常にご議論があったところでございますけれども、特に部会長代理、その他の委員から、5 つの政策目標の間の概念として意味的な重なり合いが気になるというご意見がございました。また、安全・安心と経済と環境、この 3 つは少なくとも独立しているのははっきりしているというアドバイスもございましたので、暮らしと経済と環境ということで、前回の 5 つを 3 つに集約いたしまして、5 - 1 を「安全で安心できる質の高い暮らしの実現」ということでまとめさせていただきました。それから、5 - 2 といたしまして「都市の再生と地域の連携による経済活力の回復」とまとめました。5 - 3 の「環境の保全・創造」

は、基本的に前回と変わっておりません。このように構成を変えさせていただいたということでございます。

それから、お気づきになられたかと思えますけれども、目次が、前回とはかなりボリュームが増えております。前回、目次だけで大体中身がわかるようにしたほうがいいというようなご意見がございましたので、小見出しまで全部目次のところに掲示をさせていただきました。それから、さらに中見出しとか小見出しのタイトルが非常に長くなっております。これは前回、複数の委員から、見出しである程度何を言いたいのかわかるようにということで、それぞれのパーツ、パーツの中で一番大事なこと、もしくは一番言いたいことを見出しにそのまま書いたらどうかというようなご意見がありましたので、そのご意見を踏まえて修正をさせていただいたものでございます。

大きな構成点の変更は以上でございます。

最初に戻っていただきまして、まず、表紙でございますが、表紙のタイトル、「今、転換のとき」で、サブで「よりよい暮らし・経済・環境のために」というタイトルでございます。これは前回、各委員から見出しにつきましてもたくさんのご意見をいただきましたけれども、集約いたしますと、半数以上の委員が「転換」ということをキーワードに掲げられておりましたので、メインのタイトルを「今、転換のとき」というふうなことにさせていただいております。これは前回の皆様方のご意見、それから、前回ご欠席だった〇〇委員にもアドバイスをいただきまして、最終的に部会長のご意見でこのような最終案とさせていただいたものでございます。

順次、中身、特に変わった点につきまして説明をさせていただきたいと思えます。表紙をめぐっていただきまして、「はじめに」でございますが、ここの文章も少し変わっております。基本的な趣旨は変更しておりませんが、文言を整理したということでございます。確認の意味で見ていただきますと、最初のところで「戦後の経済社会システムそのものの改革が求められている」ということで、「道路行政についても例外ではなく、今後の道路政策や行政手法について、柔軟かつ大胆な発想をもって、その改革の方向を幅広く検討する必要がある」ということで、これまでの検討の経緯等を書いております。

真ん中よりちょっと下でございますが、「議論を始めるにあたり」ということで、「議事を完全公開するなどオープンな形で会議を運営する」という特徴、1つ目の特徴を書いております。

それから、2つ目の特徴といたしまして、委員から提出された提案ペーパーを中心とし

て議論を進めた、この2つのことを強調をさせていただいております。

その上で、「本中間報告は」ということで、「道路行政の改革の基本的な方向を示したいとする提言である」。最後に「行政がこの提言を真摯に受けとめ、道路行政の改革の実現のために十分に検討を深め、道路行政転換への具体的な行動を起こすことを強く期待する」というふうに結んでいるところでございます。これが「はじめに」でございます。

目次がずっとございまして、まず、1ページからでございます。変わった点だけ簡単に申し上げたいと思います。まず、1ページでございますが、第 部の第1章でございます。

「経済社会についての現状認識」、1 - 1、タイトルを変えております。前回例えば「戦後の経済社会の変化」という中身のわからない言葉だったものを、「欧米へのキャッチアップから成熟型社会へ」というタイトルに変更しております。(1)のタイトルもそういった意味で少し言葉を足しております。それから、例えば1行目でございますが、前回、「戦後、技術も何もない」と書いてあったんですが、意見がございまして、技術はとらせていただいております。

それから、(2)「成熟型社会への移行」のところは、文言、てにをはだけで特に変えておりません。

それから、2ページ、(3)のタイトルも、前回「人口の減少」と書いておりましたものを、「少子高齢社会の到来」というタイトルに変えました。

それから、〇〇委員の意見で、当初は「少子高齢化社会」と書いてありましたが、もう高齢化の「化」は要らない、もう高齢社会に入っているという意味で、「少子高齢社会」と言葉を統一させていただいております。

それから、(4)「環境の調和」と書いてありましたものを「経済と環境の調和」とか、見出しを少し言葉を足しております。中身は変わっておりません。

(5)のところも「の進展」という言葉を足しております、ここも中身そのものは変わっておりません。

それから、3ページでございますが、1 - 2のタイトル、これも言葉を足しております、「施策の峻別とパートナーシップによる持続可能な新たな経済社会の構築に向けて」と、長くなりますが、わかりやすくということで、表題のところを変えております。

続きまして、第2章でございますが、第2章の2 - 1(1)「経済社会の発展を支えた道路整備システム」のところですが、4ページのほうに行きまして、少し言葉のわかりにくいところを追加をいたしております。4ページの頭のほうで、最初の2行ぐらいでござい

ますが、我が国の道路が何に対して貧弱がよくわからないということで、「欧米先進諸国が馬車交通の時代を経て19世紀後半から近代的な道路整備を進めてきたのとは対照的に」ということで、戦後の我が国の道路が非常に貧弱だったということがわかるようにしたとか、その項目の一番最後ですが、「効率的な物流や国土の有効利用を通じた経済成長の実現」でありますとか、「生鮮食料品や宅配便の全国的な流通など国民生活の豊かさの向上」とか、こういった単に経済成長とか国民生活の豊さと書いてあったものの少し例示をわかりやすくつけ加えたというような修正を行っております。

それから、4ページの(2)は、見出しに少し言葉を足しておりまして、内容は変わっておりません。

4ページの(3)のところは「残された課題」のところでございますが、次のページを見ていただきまして、一番最後に、「また」以下の4行でございますが、これは前回、部会長代理のご意見をここに入れさせていただいております。「また」以下のところでございますが、「戦後の道路行政は、単純な車走行空間の確保・整備から歩行者や公共交通を含む多用途の交通空間の整備へと進んできたが、今日、美しい国土や個性ある地域を担う、多機能な社会共有空間としての道路の役割を再認識することが重要になっている」というような文章をつけ加えさせていただきました。

それから、2-2の「道路を取り巻く諸環境の変化」、構成については、先ほど申し上げたとおり順番を変えております。(1)のところは、最初に1行ちょっとですが、言葉を追加させていただいております。東アジア諸国の全体の話をもとにしているんだということがわかるような文章を1行入れております。

それから、6ページでございますが、(2) 特段変えておりません。(3)でございますが、これも見出しの文言を、前回は「都市化の収束と過疎化の進展」という言葉でありましたが、もう少しわかりやすくということで言葉を足しております。

それから、その下の(4)も同じでございますが、前回は「自動車交通量の減少」としか書いておりませんでした。中身に合わせまして「2030年前後をピークに減少する自動車交通量」ということで、中身の要約を見出しに使っております。

7ページでございますが、(5)「財政制約と更新投資の増大」ということで、これは前回、2つに分かれておりましたものを一緒にさせていただきました。いずれも新規投資の制約要因になるということで、まとめさせていただいたところでございます。

それから、7ページの第3章「道路行政についての反省と課題」のところでございます。

ここも見出しの表現を変えております。3 - 1「投資すべきところに十分に投資しているのか」ということで、前は「国民の期待との乖離」というかたい文章になっておりましたが、若干口語調でございますけれども、このほうがわかりやすいのではないかとということで、「投資すべきところに十分に投資しているのか」というふうに見出しを変更させていただいております。

それから、8ページのほうに参りまして、この項目の中でございますが、8ページの真ん中のあたりで、「一方で」というところからの4行あたりを追加をさせていただいております。「残された課題」で幾つか書いてあることが、すべて都市に関するばかりで、地方のことが書いていないというご意見もありました。また一方、前回、地方のことは書かなくてもよいというご意見ももちろんあったところでございますが、あまりにも偏っていると思ひまして、ここに地方のことを4行追加をさせていただきました。

それから、8ページの下の方、3 - 2でございますが、これも「料金収入に過度に依存した」というような説明をタイトルにつけ加えさせていただきました。あとは、9ページの内容は、多少わかりにくいところを整理をして、少し文言を修正をさせていただきました。

3 - 3、3 - 4でございますが、3 - 3は特に変えておりません。10ページの3 - 4も、タイトルを変えておひまして、前は「有効活用の観点の軽視」という言葉であったものを、「『つかう』観点の軽視」というふうに変えさせていただきました。

それから、第4章、11ページからでございますが、「基本的な方向」ということで「道路行政の使命」、それから「3つの政策目標」、この「3つの政策目標」は先ほど申し上げたように前の5つを3つに集約をしたものでございます。

それから、4 - 3「行政システムの改革」ということで、「基本的視点」は特にタイトル、変えておりません。

12ページのほうに参りまして、前回、議論になりましたところですが、12ページの真ん中でございます。「成果重視で『取り戻す10年』の実現」という中で、2つ目のパラグラフのところで、「また、マクロ経済の面でも」というこの4行でございますが、前は、この項目の一番下になお書きで書いてござひまして、委員からは、申しわけないように出ているというようなご意見もござひまして、一番下のなお書きではなくて、2つ目のところに「マクロ経済の面でも」ということで、「真に必要な公共事業を行う歴史的なチャンスであるとも言える」という形で入れさせていただいてはどうかということで書いておひま

す。

それから、１３ページ、文言だけで、てにをはだけで特段大きな変更はございません。

それから、１４ページでございますが、１４ページの見出しのところ「新たなパートナーシップの確立」の前に、「『公』の意識に基づく」ということで、これは前回、〇〇委員のほうから、文言で書くだけではなくて、見出しにもそういう公というものを意識した言葉を入れたらどうだというようなご意見がございましたので、このように変更させていただきました。

以上が、部でございます。

続きまして、部のほうでございますが、これは先ほど申し上げましたように第５章ということで、先に「政策目標」を持ってまいりまして、それを３つに集約をさせていただきました。５－１が「安全で安心できる質の高い暮らしの実現」ということで、前回、２つに分かれていたものを基本的にはまとめましたので、項目の並べ換えとか、それぞれのダブりの部分の調整をさせていただいたものでございます。そういったことで、てにをはとか文章表現は多少変わっておりますけれども、基本的な趣旨は変わっていないつもりでございます。

その中で１番といたしまして「安全な生活環境の確保」、２番といたしまして「歩行者・自転車を重視し、生活環境の改善に資する道路整備の推進」、３番といたしまして「災害や救急医療等緊急時への備え」、次のページへ参りまして、４番といたしまして「密集市街地の解消に資する都市計画道路の整備の推進」、５番といたしまして「沿道空間との協働によるまちの賑わいの創出や美しいまちなみの形成」、最後に、６番として「更新時代への対応」という形のまとめ方をさせていただきました。

続きまして、１６ページ５－２「都市の再生と地域の連携による経済活力の回復」ということでありまして、（１）が、まず「渋滞の解消」ということで、「道路の機能分化と既存道路の有効活用による渋滞の解消」でございます。その次、１７ページのほうに参りまして、２つ目が「民間の建築活動の誘発など都市再生に資する道路の重点整備と都市計画道路の見直し」というのを２つ目に掲げております。

それから、３つ目でございますが、前回、「総合的な交通システム」の記述については、渋滞の中にあわせて書いてございましたが、分量が多くなるということと、やはり「総合的な交通システム」と１つ項目を起こしたほうがいいというご意見もありましたので、１つ立てまして、３といたしまして「都市部における総合的な交通システムの構築」という

ふうに掲げさせていただきました。

記述につきましても、従来、下の「また」以下の３行をつけ加えさせていただきました。これは前回、〇〇委員のほうから、大都市のことしか書いていないというおしかりをいただきましたので、「また」ということで、中小都市部におけるバス交通の話を３行ほど追加をさせていただいたところでございます。

それから、１８ページのほうに参りまして、（４）「連携を重視した地域ブロック圏・地域生活圏形成の支援」、５番といたしまして「地域のモビリティの向上」、６番といたしまして「物流の効率化・情報化への対応」という構成にさせていただいております。

１９ページからの５－３「環境の保全・創造」、これは前回と変わっておりません。

２０ページでございますが、第６章ということで「行政システムの改革」ということで、６－１が「評価システムによる峻別」でございます。これも見出し、中身とも変更ございません。

６－２「集中的重点整備の実施」ですが、これも見出し、中身、変更ございません。

次のページ、２１ページに参りまして、６－３「有料道路制度の見直し等」ということでございますが、ここはずっと変更はございませんが、２２ページでございます。変更のところだけ申し上げますと、２２ページの真ん中あたりの括弧書き、「道路ストックの有効活用のための値下げや割引制度」のところで、最初の１行、つけ加えさせていただきました。目的が書いていないということで、目的を書くべしというご意見がございましたので、「安全で安心できる生活道路の確保と地域のモビリティの向上のため」という目的をつけ加えさせていただきました。

それから、２３ページ、６－４「既存ストックの有効活用」、ここも少し言葉を追加させていただいたぐらいで、内容的には変わっておりません。

それから、２４ページのほうに参りまして、６－５「コスト縮減・技術開発」、ここも基本的に変わっておりません。

それから、最後、２５ページでございますが、６－６「ユーザーの視点に立った開かれた行政運営」ということで、ここは１、２、３、文言の整理だけで特段変えておりませんが、（４）に「『公』の意識に基づく新たなパートナーシップの確立」ということで、第一部にあった記述を基本的にそのまま少し要約して、ここにも掲げさせていただきました。一応１部と 部構成になっておりますけれども、 部だけがどこかに出て行くということも考えられますので、 部にある大事なことについては、 部のほうにもちゃんと再掲す

るという趣旨で、抜けておりましたので、同じことを書かせていただいたということでございます。

変更点は以上でございます。

それから、その下に参考資料というのがあるかと思います。この参考資料につきましても、今度8月2日に道路分科会が開かれたときに、基本政策部会からの報告ということで、今ご説明させていただいた中間報告に添付して、参考資料もつけて報告してはどうかというふうに考えております。中身の説明は省略させていただきますけれども、今まで、この部会の議論を逐次、道路局のホームページに載せまして、アンケートをしてきたものの集計でございまして、アンケートの総回答数は2,056件でございます。その選択式アンケートの集計結果が1ページから9ページまでずっと続いております。

それから、10ページをお開きいただきたいと思います。参考資料の10ページでございますが、2.「自由意見の整理結果」ということで、選択式アンケートのほかにフリーアンサーもいただいております。これは2行目から3行目に掛けて書いてございますが、全体で5,053件の意見のうち、代表的な意見だけをまとめたものでございまして、今回の最終の中間報告の章立てに合わせた形で代表的な意見をまとめさせていただいたものでございます。こういう形で分科会に報告させていただいてはどうかというふうに考えております。

説明は以上でございます。

【部会長】      ありがとうございました。

それでは、もう全体にわたりまして最後ですが、ご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

ここで書かれている将来交通量は、2030年ごろにピークを迎える、そういうところがありますが、それに関しまして新聞にも出ていましたが、例の民営化委員会でも大分議論になりました。そんなこともありまして、私、もう一回、分析を詳しく見させていただきました。だけど、現在できる最善の方法でやっているというふうに私は理解しました。1つの議論というのは、2006年に人口がピークを迎える。それで交通量が2030年まで伸びるというのはおかしいのではないかというご意見も出たわけですが、6年にピークを迎えても、免許証をとるまでに18年かかるわけで、みんなの交通行動がそのまま並行に推移したとしても、2024年になるということですので、そんなにおかしい話ではないと私は理解しました。ただ、あれだけの長期の予測ですから、これは確実にどうなるか

というのは、これはまたその時々 of いろいろな状況が関係すると思いますが、今はそういうふうなものをベースとして考えるのが最も穏当だろうと私は思いました。

あと、何かご意見がありましたら、どれでも結構ですが、どうぞ。

【〇〇委員】 事前に送っていただいて意見を申し上げたんですが、言い忘れたのがあって申しわけないんですが、1点だけ申し上げます。17ページなんですが、「都市部における総合的な交通システムの構築」は、前回にも意見を申し上げまして、随分よく直していただいていいと思いますが、最後の文言のところなんですけれども、最後の行です。「道路交通の円滑化に資するバス交通支援に積極的に取り組むべきである」ということなんです、これは一部、正しいことではあるんだけど、道路交通の円滑化に資するということが目的とは限らない面もあるかと思います。

私の案は、前のほうから読みますと、「バス交通が公共交通の中心となっていることから、バス交通の走行環境改善や利用環境改善に対して道路行政としても積極的に取り組むべきである」というようなことではいかがかと提案させていただきます。

【部会長】 よろしいですね。そのほうがいいですね。ありがとうございました。

あと、いかがでしょうか。もう何回も見ていただいたので、そんなにもうないだろうとは思いますが、もしあればどこでも。

【〇〇委員】 本筋と関係ないんですけども、7ページの第3章の「反省と課題」、これはかなりきわめつきのところなのに、どうしても文章の配列上、下に行くのは、寂しいなと。文章の追い込み方をもうちょっと上のほうがいいでしょう。こんなに下の方にあると、ほんとうは反省したくないと見えます。文字の追い込み方を工夫してもらえたらというのと、「つかう」と「つくる」はわざと平仮名にしているんだと思うんですが、妙な意味を持つ恐れがして、ここはどうかと思います。普通に「作る」と「使う」としたほうが、いいのではないかと。

【〇〇委員】 同感。

【〇〇委員】 「つくる」を「作」にして、「つかう」を普通の「使う」で、そうすれば意味としてはそういうふうな意味で使いたい。

【〇〇委員】 そのほうがいいと思います。創造の「創」を使っちゃうと、また言い過ぎて、またうそだろうと言われるから、もう普通の「作」にしていくぐらいのほうが、平仮名よりはいいと思うんですけど、どうでしょうか。

【部会長】 わかりました。では、そういうふうに直していただきます。

【〇〇委員】 でも、何か意図があったんでしょう。広くあまねくみんなに知らしめたくて。

【説明員】 いや、それほど鋭い感覚ではありませんので。

【〇〇委員】 でも、普通そうじゃないのにこうだと、意味を持ちますね。だから、書いた人が何かあるのかなと思って。

【部会長】 〇〇さんにもご意見をいただいたんですが、この表題をいろいろ〇〇さんのご意見も入れて、ほかの方のご意見も入れて、こういうふうにしたんですが。

【〇〇委員】 優しい感じを、やわらかく。

【部会長】 time to changeとか。EUのレポートがtime to decide、今、決めるべきときと言うんだけど、我々はまだその前かもしれない。何かご意見がありましたらどうぞ。

【〇〇委員】 内容的なことについては、かなり私も細かいことを申し上げて、実はかなり拾っていますので、これ以上、申し上げません。今、〇〇さんから、反省の部分ももう少し目立つようにとかいろいろありましたので、最終的にいろいろな形で配るときに、現状の活字の大きさとこのページでいこうということであるんだっただらということでも申し上げますと、基本的に、章ごとには改ページしたほうがいいと思います、見やすくして。その場合には、少し下の行があいた箇所があってもいいんじゃないか。つまり、今のお話は、7ページでまず改ページしますと、自動的に少しずつ上げていけば、自然に反省が上に来るということになりますし、それから、表紙も、この形でもし配るのであれば、上にかたい中間報告で、今度（案）がとれるんだと思いますが、これは何となく昔からある古いスタイルですけども、基本的に言いたいことは真ん中で、従来の報告になかった形になっているということで、私としてはこれでいいんじゃないかなと。

さらに言っていけば、ここに策定計画まで細かくうたっていますので、いつからスタートして、いつやったかと、実はかなり集中的に開いておりますので、一番末尾に開催日ぐらいいは入れてもいいのかなという感じもいたしました。

あとは、むしろ私自身として大変興味がありますというか、ぜひお願いしたいのは、「はじめに」の部会長あいさつの末尾にあるとおりでありまして、今後どうするのかということでありまして、きょうの新聞にも非常に大きく長期計画そのものが見直しであるということのようですけれども、計画の見直しはいいんですが、問題は、我々が望んでいることは、ちゃんといい政策を実行してほしいということであって、それがどういう計画の形を

とるかというのは、別に時代によって当然、変わってくるものであるとおそく思います。ということで、もしきょう、少し皆さんの意見を事前に、あれで終わるようでしたら、せっかくですので、今後どうするのかというのを皆様方から聞いてみたいなという感じもいたしますので、そんな感じでございます。

【○○委員】 目次のところで気になったのは、本文も関係あるんですが、第2章の2-1の(3)「渋滞・事故・環境など残された課題の存在」、「課題」でいいかな、「の存在」というのは何か意味があるのか。それから、今、○○さんが、次の「投資すべきところに十分に投資しているのか」を、「必要なところに」のほうがいいんじゃないかとこそこそと言ったので、これはやっぱり「投資」が2度来たほうが、反省を深くしている感じがするのと、たたみかけているように見えるので、いいと思います。「限界を感じた」ということとつながると、○○さんには、「投資すべきところに十分に投資しているのか」のほうが、「必要なところに」というよりも、ガサガサッとひっかかるものがきっと見る側にもひっかかると思うので、この辺はほんとうにそう思っているんだということでもいいんじゃないかと。

【部会長】 この4ページのところはどういうふうにすればいいですか。例えば「今も残る渋滞・事故・環境などの課題」、同じことだけど。

【○○委員】 目次で「の存在」は要らないかな。「課題」でいいのでは。その後は、○○さんは入れて、私はこのまま「投資すべきところに」というほうがいいなと思います、デザインの的に。

【○○委員】 僕、どちらでもいいですよ。

【部会長】 ただ、ニュアンスとしては、上のほうはかなりの整備はしてきた。だけど、まだ残っているものもあるんだというのと、そういう意味からだと、今も残ると。

【○○委員】 まだ存在しているところもある。

【部会長】 うん、今も残る環境などの諸課題、これで分かるかな、残された課題だから。

どうぞいくらでもおっしゃってください。

【○○委員】 じゃ、もう一点だけ。中身じゃないんですけども、これは今回の委員から提出されたペーパーを最初にたたき台にしてこうやってつくり上げてきたというわけで、希望なんですけれども、こういう文章はえてして、中央行政だけとは言わないけれども、地方も含めて行政の中で読まれることが多い、そういう想定でつくられているから、

こういう文章を中心につくっていて、それはそれなんですけれども、こうやって公開しながらやっているということも考えると、ここに書いてあることの論拠というものが、何か資料として後ろのほうにあるのは大いに結構で、参考資料でこういうのがあるのはいいんですが、同時に、いろいろなバックデータや何かが途中で提出、私どももしたし、事務局からもしていただいているわけで、そういうのを何かつけておくほうが、説得力もあるし、サイエンティフィックであるし、いいんじゃないかなと思いますが、いかがでございましょうか。

【説明員】 前回も確か似たようなご意見があったと思いますが、前々回だったですか、〇〇委員から。最終的に印刷というか、刷るとき、地方公共団体の皆さんとかに配れるように、そのときにはそういう参考資料を、これまでの委員ペーパーも全部つけて、それから、バックデータとかデータみたいなのも全部つけるとしています。そこについてはまた、実際につくるときにご相談させていただきたいと思っていますが、次回の分科会のごときにそれも必要だというご意見なのかどうかは確認ですけど。

【〇〇委員】 要するに普通の人が見るときに、ついていてほしいという意図です。

【部会長】 皆さんに書いていただいたのを、原稿料も払わずに出させてもらうのは少し気が引けるんだけど、それは皆さんに認めていただいて、そういう形で残す、見ていただくというふうにしたいと思います。

あと、いかがでしょうか。

3ページ目の上の1-2というところ、1-1というのは今までのこと、それから、1-2はこれから先の社会のことを言おうとしているんだけど、何か題が長ったらしくて、ごじゃごじゃしているね。もうちょっとすっきりさせたいという感じがあるんですが。パートナーシップなんて言うているのは、それこそPFIとか、そういうふうなものもあるし、それから、責任分担の話もあるし、いろいろなことをひっくるめて言うているんだろうとは思いますが、あまりいい表現が僕は思いつかないんだけど。

【〇〇委員】 先生、これは真ん中全部要らないんじゃないんですか。「施策の峻別に向けて」でいいんだけど。

【〇〇委員】 これを「施策の峻別とパートナーシップ」で切っちゃえばいいんじゃないですか。

【部会長】 あるいは「持続可能な経済社会の構築へ向けて」というんだったら、それで棒を引っ張って「施策の峻別とパートナーシップ」とか、そうしないとごちゃごちゃし

ていて。

【説明員】 少なくともこれは確かに読みづらい。

【〇〇委員】 無理やり入れている感じです。

【〇〇委員】 「新たな」も要らないんじゃないですか。

【部会長】 そう思うんですが。

【〇〇委員】 構築したいというのはこれからということです。

【部会長】 〇〇先生や〇〇先生、何かご意見があれば何でも結構ですが。何回も見ていただいているのであれだと思いますが。

【〇〇委員】 今までのご意見、私も賛成な部分がたくさんありますので、その点だけサポート申し上げておきたいと思います。反省と課題というと、反省するときはなるべくものすごく反省しているということを見せたほうがいい。実際、本音はどうかは別として、見せたほうがいいので。これは今から構成を変えるのは大変でしょうから、さっきもご意見があったようにプレス発表だとかそういうところのときに工夫をされたいかがでしょうか。私は一番最初に、前回は申し上げたんですが、部会長の言葉の中にそれを最初にぼーんとしてしまうのが一番いいのかなと、私はそういう考えでいます。

それから、副題のところも、「よりよい暮らし・経済・環境のために」、ここは何だか手あかがついているなということのように気にはなるんですけども、ある程度こういう言い方も仕方がないのかな。あまりいろいろ意見を言うと、自分が本を書くときに使うタイトルがなくなっちゃうのであまり言いたくないんですけども、我慢の10年とか、そんな感じなのか。サステナブルな社会の構築に向けてなんですね。サステナブルな社会というのは、我慢しなければいけない。いろいろな環境のコストを負担しながら、今までみたいに自由に車を使って走り回ってられないよ。生き残っていくためには環境のコストだとか、そんなことも考えなければしょうがないよねという時代ですから、そこへの転換に向けてということなのではないかと思いますけれども、内容的には中を読めばわかる話ですので、それでいいかなと思います。

それから、巻末資料のところに委員の発表したものを載せるというのは、大賛成でありますので、ぜひ載せていただきたいと思います。

さっきの3ページのところの話は、1 - 2のところの話は、確かにごちゃごちゃしている。私は「持続可能な経済社会の構築に向けて」というのが、全体のほんとうはタイトルなのかなと思います。ここのところは「施策の峻別と官民パートナーシップ」、タイトルは

それだけでいいのかなという気がいたしました。今から変えられる範囲内で結構ですので、ご検討をいただければと思います。

以上です。

【部会長】      どうぞ。

【〇〇委員】      非常に細かいですが、20ページでございますが、外来語をむしろサブにして日本語を何とかつけてほしいというのをお願いして、実はかなりそうになっているのですが、1カ所、私、見落としていて、20ページ、ビルトインというのがあります。ですから、これも括弧にするか、やめていただいて「行政運営に反映する」とか、そんなことでよろしいんじゃないかと思いますので、そんなようことでもう一回、目を通していただいて、あと一、二カ所出てくるかもしれませんので、よろしくお願ひしたいと思います。

【〇〇委員】      前回の後、申し上げたことをほんとうに細かく取り入れていただきまして、ありがとうございました。すごく読みやすくなっていると思います。1点だけ、事前にお送りいただいたものを拝見して、ここはちょっとわかりにくいのかなと思うところがございます。12ページですけれども、「成果重視で『取り戻す10年』」、これを目次で見出しを拝見したときと、なおかつ本文の中で「取り戻す10年」といったときに、多分〇〇委員の「失われた10年」の部分を今から早急に回復するんだというニュアンスでお書きいただいていると思うんですけれども、何となくニュアンスが初めて読む人に、「取り戻す」という意味が伝わりにくいのではないかなと思います。一番項目の中の下に書いていただいている「早急に生産性の向上」、「国際競争力の回復」、「生活の質の向上を目指す『取り戻す10年』」とこう書いても、なお意味がわかりにくいんです。具体的に亀とウサギと競争しているのであれば、例えばウサギが寝ている間に亀に抜かれちゃったわけですが、じゃ、ウサギは亀と同じようなスピードで歩いていればよかったのかどうか。亀に勝つためには、寝ないで、より速度を上げてキャッチアップしていかなければいけなかったわけで、ここでもう少し、単に「取り戻す10年」だけでいいのか、10年同じ歩みをしてきて、そのレベルでいいのかどうかとか、それ以上のものを目指していくのかどうかというところの少しニュアンスがわかりにくいので、もし今から修正していただける点がありましたら、もう少しより強力に、よりスピードアップというようなニュアンスがわかるようにしていただいたほうがいいのではないかと思います。

以上です。

【部会長】      あと、いかがでしょうか。大体そんなところで出尽くしたでしょうか。

【○○委員】 「取り戻す１０年」って、だれが言ったんですか。先生？

【部会長】 僕、言っていない。

【○○委員】 考えてみると、変ですね。昔の１０年をもう一回取り戻すの？ 昔に戻る。昔はよかった、昔はよかったというふうに言いますね。だから、戻そうって。

【事務局】 昔というか、国際競争力が失われたのに対してというぐらいのあれだったんです。表現に特にこだわりはありません。

【○○委員】 失われたから取り戻す。失われたものと同じものを取り戻すのでもないですね、この時代は。ちょっと誤解されるかもしれない。若さを無理やり取り戻すみたい

に。

【○○委員】 最後のところに、早急に生産性の向上、国際競争力の回復、生活の質の向上、これを取り戻すんでしょう。普通に読めばそういう話ですね。これを取り戻すのに、ただ、１０年分普通に取り戻すんじゃだめだよというのは○○さんがおっしゃった話で、別にそんなに違和感はないですけども。

【○○委員】 １０年かどうかはわかりません。

【○○委員】 この１０年間で１０年目に意識するという、大体我々行政は１０年間ぐらいの単位でぐらいで先を考えているので、そのぐらいの話でしょうね。

【○○委員】 でも、ここにかぎ括弧をつけたら意味を持ちますよ。流している「取り戻す１０年」とかぎ括弧の「取り戻す１０年」は全然意味が違います。

【○○委員】 あまりかぎ括弧をつけるところまでの議論はしてないですね。流す話であれば、皆さん、異論はないと思います。

【○○委員】 でも、急にここに「取り戻す１０年」だと。

【○○委員】 そういう目で、かぎ括弧がほかにあるか見てみますと。

【部会長】 やめて、例えば「新たな発見への１０年」。括弧なしで。

【○○委員】 いいですね、前向きで。

【部会長】 いろいろなもので旧来と同じものという意味でなくて。

【○○委員】 ほかにはあまり使っていないんでしょう。こういう形のかぎ括弧は。

【○○委員】 「新たな飛躍を目指す１０年」とかそういうほうがもうちょっと発展的。

【部会長】 そういうふうにしましょうか。ありがとうございます。

もうちょっと落ちついて大体こんな方向で、「取り戻す」というのはやめましょう。

あと、よろしいでしょうか。局長にはまだ最後に一言言ってもらうことになるかもしれ

ませんが、事務局のほうで何か最後にご意見がございましたら、どなたでも結構ですので、おっしゃっていただければと思います。

よろしいですか。

それでは、本日いただいたご意見を踏まえまして、この中間報告の（案）のもう一度修正をしようと思います。修正の中身は、そんな本質的なところはなかったと思いますので、私にお任せいただけるとありがたいと思うんですが、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

【部会長】      どうもありがとうございます。

それでは、そういうふうなことを直して、それを基本政策部会の中間報告としたいと思います。8月2日に埴さんが会長をされている道路分科会が開催されますので、その場においてこの中間報告を報告し、道路分科会で了承を得た後、道路分科会の中間答申として国土交通大臣に提出するということになります。

それでは、そういうことで最後ですので、一言皆さんにお礼を言わせていただきます。3月5日の第1回からきょうまで10回、しかも2週間に1回という大変なペースで開催していただきました。そして、特に委員の方々には、考えを出していただいて、ペーパーを出していただくということをお願いいたしました。皆さん仕事を持った上での時間のない中で準備していただきました。特にこういうところで大勢の前で宿題の発表をするというのは、もううれしくないんですが、それをあえて皆さんにやっていただきました。ありがとうございます。

多彩なご意見でしたので、それを全部取り入れることはもちろんできなかったわけで、それぞれご不満もあろうかと思いますが、それを皆さんお認めいただいて、こういうふうな1つの案にまとめることができました。また、これをつくるに際しては、道路局の事務局のほうで大変なご苦心をしていただきました。大変多くの資料を集め、多くの時間を使って、そして、大変多彩、多様な意見を1つのシナリオの中に入れていくという、これはやれば大変な仕事なんですが、それをやっていただきました。おかげでこういうふうなそれなりの1つのシナリオとしてまとまったのだと思います。

もう一つ、これはオープンな形でやるということで、多くの方々にこうして聞いていただきました。大変熱心に皆さんに聞いていただいているわけで、そういうことで、私もそれなりの緊張感を持ちながらやることができましたし、また、なるべくわかりやすく、そして前向きな形でということをするのに、皆さんのこうしていただくということは

大変力になったと思います。改めてお礼を申し上げたいと思います。

そういうおかげで、「今、転換のとき」というふうな道路行政の1つの転換に当たっての方針をここに書けたと思います。そういったのというのは、今までアメリカでもそうだったし、それから、イギリスもわりに最近ですが、ア・ニューディール、新しい政策の方向ということで、交通に関して出しましたし、ドイツも出しました。あるいはさっきちょっと言いましたEUも出しました。アメリカも大分前ですが、IHTというので出しました。私どもそういうのに比べると、道路整備そのものがおけているということもありますし、いろいろな形で少しおくれをとっていたような気分を持っていたわけです。だけど、ここでこれだけのレポートをつくることができた。

私は、言っている内容的にも決してそういうふうなものに劣らないものができた、あるいはそれ以上のものができたと思っています。したがって、これがこの先、何年かにわたって進められる道路政策の新しい転換のエポックになってほしいと思っているわけでございます。ともかくこういうふうなのがつくれたことを皆さんに大変お礼を申し上げたいと思います。私はかなりいいかげんな座長だったわけですが、皆様のご協力でそれができました。あとは、前書きにも書いていますが、道路局をはじめとしての行政サイドで、この転換のための具体的な行動をこれから進めていただく。これは私どものように書くだけ、言うだけでなく、実際にいろいろなインタレストグループもたくさんある中でやるわけですから、大変大変なことだと思いますが、私どもの案がそういうふうなのにやるに値するということであれば、ぜひその方向で強力に推し進めていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

では、事務局から。

【事務局】 恐縮でございます。それでは、最後に、一言御礼を申し上げます。今、〇〇先生のお話にもございましたように、このご提言をいただきまして私自身はこんなふう考えております。昭和29年に道路整備の5カ年計画を始めまして、以来12次ということで約50年でございます。この50年間、それこそキャッチアップであり、あるいはある意味、欲しがりません、勝つまではというところもあったと思います。新たな今、転換のとき、21世紀、100年とは申し上げませんが、これからの50年間、方向性をここにいただいたということで、あとは私どもがこの分科会を経まして、私どもがこれからの方向性について具体的にできるだけのものを出させていっていただく、これは私どもがしっかりと受けとめさせていただくべきことでもありますし、そういう意味では50年間

のあか、いろいろたまってきているのではないかなという外部からのご指摘もいろいろあるところでもありますから、こうした状況の非常に厳しいような状況のもとで、〇〇先生にはまたいろいろほかの面でもご苦労いただいておりますが、先生方のご指摘を十分生かしてみんなでしっかりした方向に具体的に行動していく、こういうことをお約束申し上げさせていただきまして、心からの御礼にかえさせていただきます。大変ありがとうございました。

【部会長】 それでは、早くやめるのは皆さん、賛成でしょうから、これで終わります。どうもありがとうございました。

―― 了 ――